

《マレーシア》

内閣改造：華人政党の内紛に 配慮したマハティール流人事

マハティール首相は6月24日、リン・リョンシク氏の辞任に伴い空席となっていた運輸相人事を中心に(政務次官を含め)8人を異動する小規模な内閣改造を発表した。改造人事は下記の通り(カッコ内は前職)。

- 運輸相：チャン・コンチョイ
(第二副財務相)
- 第二副財務相：ン・イェンイェン
(副文化芸術・観光相)
- 副文化芸術・観光相：フー・アーキョー
(通商産業政務次官)
- 副運輸相：ダグラス・ウガー・ウンバス
(副首相府相)
- 副首相府相：M. ケイベス
(副住宅・地方自治相)
- 副情報相：ドナルド・リム(運輸政務次官)
- 通商産業政務次官：ホー・チョンシン
[下院議員]
- 女性・家族開発政務次官：マスティカ・ジュ
ナイダ・フシン [下院議員]

運輸相にはチャンMCA総裁代理

与党連合・第二党(下院28議席)のマレーシア華人協会(MCA)では、リン・リョンシク前総裁の主流派(「チームA」、以下「A」)とリム・アーレク前総裁代理の反主流派(「チームB」、以下「B」)による長期にわたる内紛を收拾するために、5月下旬にリン氏とリム氏が揃って退陣し、若手のオン・カティン氏(「A」)とチャン・コンチョイ氏(「B」)をそれぞれ総裁、総裁代理とする新体制が発足した(この経緯は2003年6月15日号の本欄で詳細を報告した)。リン前総裁は運輸相ポストからも辞任したために、後任とそれに連動する人事が必要となり、今回の内閣改造になった。

有力な閣僚ポストである運輸相は、慣例的にMCA総裁が座る「指定席」であり、リン前総裁は17年間も同ポストを保持した。しかし、マハティール首相は改造人事でMCAナンバー・ツリーのチャン新総裁代理を第二副財務相から運輸相に昇格させた。下馬評では運輸相への異動が有力視されていたオン新総裁は、住宅・地方政府相ポストに留まることになった。いわば、党の上下関係を閣内では逆にしたと言えなくもない人事である。

また、第二副財務相の後任には、ン・イェンイェンMCA女性部長(「A」)が副文化芸術・観光相から実質的な昇格となる「横滑り」。副文化芸術・観光相にはフー・アーキョー前通産政務次官(「B」)、通産政務次官には「A」からホー・チョンシン下院議員を起用した。

一方で、マハティール首相は、フォン・チャンオン人的資源相(副総裁:「A」)、チュア・ジュイメン保健相(副総裁:「B」)、それにMCA指導部批判の「急先鋒」だったオン・ティーキエット副青年スポーツ相(青年部長:「B」)らMCA幹部のポストには触らずに「A」と「B」のバランスをくずすことがないように配慮した。

「チームB」の不満を吸収

こうした華人閣僚の新しい布陣について、マハティール首相は「能力と適性」を考慮したもので政治的思惑などはないことを強調している。しかし、過去の慣例を破ってMCA総裁代理のチャン氏を運輸相に任命したところに、閣僚配分を巡る「B」の不満を吸収し、MCA内の融和を図ろうとする首相一流の心憎いほどの人事術がうかがえる。

さらに首相は、華人社会への広報を担当する副情報相ポストを増設し、ドナルド・リム前運輸政務次官(「A」)を起用したが、これは最大華人政党であるMCAが次期総選挙で戦いやすい環境を整備したといえる。これでMCA枠の副大臣ポストはひとつ増えて7ポストとなる(大臣は4ポストから変わらず)。

因みに、この内閣改造では、与党連合を構成する政党でMCA以外の政党枠でも、サラワク統一ミブトラ伝統党(PBB)のダグラス・ウガー・ウンバス氏、人民進歩党(PPP)のM. ケイベス氏、統一マレー国民組織(UMNO)のマスティカ・ジュナイダ・フシン氏3人の人事が発令された(上述のリスト参照)。

ただ、今年10月にはマハティール首相が「規定路線」に従い退任し、アブドゥラ副首相兼内相を首班にする新政権が発足する。次期総選挙は来年の早い時期に実施される可能性が高い。従って、6月改造人事での閣僚の布陣は暫定的なものであるのは否めない。

[人物データ・ファイル]

■運輸相 Minister of Transport

チャン・コンチョイ(陳広才)

Datuk Chan Kong Choy



49歳。MCA総裁代理。

今回の内閣改造で第二副財務相から運輸相に就任。副大臣ポストに初めて就任したのは1990年で、オンMCA総裁(住宅・地方政府相)

より5年も早いにもかかわらず、以後13年間副大臣に甘んじてきた。5月下旬のMCAの新体制発足で総裁代理に昇格する以前は、4人の副総裁の中でただ一人大臣ポストに就いておらず、このことは「チームB」がリン前総裁体制下でMCA枠の閣僚配分に反発してきた最大の理由となっていた。マハティール首相が内閣改造で、住宅・地方政府省よりは「格上」の運輸省のトップに同(チャン)氏を任命したのは、そうした「B」の不満を大きく和らげることでMCA内の融和促進に配慮したとみてよいだろう。ただ、政界通には、もともと同氏の政治家としての実力はオン総裁に優るとも劣らないとの見方があり、運輸相としての「能力と適性」は十分だといえる。

▼データ(→本誌03/6/15号参照)

■第二副財務相

Deputy Minister of Finance II

ン・イェンイェン(黄燕燕)

Datuk Dr Ng Yen Yen



運輸相に任命されたチャン氏の前職である第二副財務相の後任に副文化芸術・観光相から横滑りしたが、これは実質的には昇格人事

といつてよい(女性の副財務相就任はラフィダ・アジズ現通産相が1977年から80年まで務めた例があるだけで、23年ぶりのことである)。99年12月から3年以上を務めた副文化芸術・観光相としては、中国、台湾、香港を含め世界各国の中国人(華人)社会から観光客をマレーシアに誘致することに大きな成果を上げた。新任の副財務相としては、女性実業家の支援や小規模融資などの分野での貢献が期待されている。

57歳。医師出身。93年から96年まで上院議員を務めた後に下院議員(パハン州ラウブ選挙区)に転じた。MCA女性部長で「チームA」の急先鋒。上院議員就任時にオーストラリアの永住権を保持していたことが判明し、野党陣営からは同(ン)氏のマレーシアへの忠誠心を疑う声が出ている。

■副文化芸術・観光相

Deputy Minister of Culture, Arts and Tourism
フー・アーキョー(胡亞橋)
Datuk Fu Ah Kiow



ン・イェンイェン第二副財務相の前職である副文化芸術・観光相に通産政務次官から昇格。MCAでは「チームB」の有力者であり、パハン州出身のチャン総裁代理とともに「パハン・ギヤング」を構成している。チャン氏の昇格に連動して副大臣に昇格することは改進黨発表前から予想されていた。もっとも、そうしたMCAの派閥政治を抜きにしても学識と政治的手腕の点で副大臣の実力は十分というのが地元政界通の見方である。

54歳(1949年1月2日生まれ)。ジョホール州バトゥ・パハット出身。マラヤ大学を優等で卒業(理学士)し、同大学で教職課程も修了。2年間教職についた後に英国に留学し、77年にクランフィールド工科大学から理学修士号(経営工学)取得。92年上院議員に任命される。95年にパハン州(ムンタカブ選挙区)から下院議員に初当選。後に通産政務次官として初めて連邦政府入り。MCA(選出)中央委員(ムンタカブ地区委員長)。

■副運輸相 Deputy Minister of Transport
ダグラス・ウガー・ウンバス
Datuk Douglas Uggah Embas



14政党で構成される与党連合・国民戦線(BN)のサラワク州における中核で、マレー系およびイバン族主体の政党であるサラワク統一プミブトラ・プサカ(伝統)党(PBB)の青年部長(注)。今回の内閣改造で副首相府相から副運輸相にポスト替えになった(実質的な昇格人事)。

マラヤ大学経済学部卒。1986年からサラワク州ペントン選挙区の議席を維持。90年首相府政務次官、のちに地方開発政務次官。99年選挙ではただ一人の無投票当選者。99年12月副首相府相。

(注)PBBは連邦下院に10議席を持ち、エフェンディ・ノルワウィ(Datuk Mohd Effendi Norwawi)農相、レオ・マイケル・トヤド

(Datuk Dr Leo Michael Toyad)副外相と同(ウガー・エンバス)氏の3人が入閣している。

■副首相府相

Deputy Minister in the Prime Minister's Department
M. ケイベス
Sen. Datuk M. Kayveas



与党連合・国民戦線(BN)の構成政党でインド系住民を支持基盤にする小党、人民進歩党(PPP)の総裁で、同党唯一の入閣者。今回の内閣改造で副住宅・地方政府相から副首相府相に「横滑り」した。この人事の背景には、弁護士出身で舌鋒の鋭い同(ケイベス)氏が、副住宅・地方政府相の立場からアンパンジャヤ町議会(首都クアラルンプールの郊外)執行部の不正を摘発した事件があるとみてよい。同氏の「正義感」は地方自治体と軋轢を生んでいるのも事実で、マハティール首相は同氏には首相府で法律部門に携わらせて「冷却期間」をおいた方がよいと判断したのだろう。

49歳(1954年4月29日生まれ)。インド系。英バッキンガム大学卒(法学士)。ブランチェ&ケイベス(法律事務所)パートナー(弁護士としては20年の経験を持つ)。90年PPPに入党し、93年同党総裁。(入閣の前提として)2000年12月上院議員に任命される(PPPは連邦下院に議席を持たない)。2001年1月の内閣改造で副住宅・地方政府相。同氏の入閣には、インド人社会での与党連合への支持を固める意図があるとみられる。

▼データ(→01/2/1号)

■副情報相 Deputy Minister of Information
ドナルド・リム・シアンチャイ(林祥才)
Donald Lim Siang Chai



今回の内閣改造で、華人社会に対する政府の広報活動や華人系メディアの管理のために新設された第二の副情報相ポストに就任した(マレー系担当には、サイヌディン・マイディン副情報相がいる)。前職は運輸政務次官。MCAでは「チームA」に属している。

1980年にMCA入党。現在はMCA中央委員でスランゴール州選出の下院議員(プタリンジャヤ・セラタン選挙区)。99年12月に運輸政務次官に任命され連邦政府入り。

■通商産業政務次官

Parliamentary Secretary to the Ministry of International Trade and Industry

ホー・チョンシン(何掌醒)
Datuk Ir. Ho Cheong Sing



内閣改造で通産政務次官に任命され初の連邦政府入りを果たした。MCAでは「チームA」の有力メンバーで、「A」「B」両派の勢力バランスを維持する点から

も今回の政府入りは予想されていた。

54歳。職業はエンジニアリング・コンサルタント。1995年総選挙でペラ州(イポー・バラット選挙区)から下院議員に初当選し、99年選挙で再選。MCA中央委員(3期目)。

■女性・家族開発政務次官

Parliamentary Secretary to the Ministry of Women and Family Development
マスティカ・ジュナイダ・フシン
Mastika Junaidah Husin



与党連合の中核政党・統一マレー国民組織(UMNO:総裁=マハティール首相)の政治家としては、今回の内閣改造で只一人人事の対象になった。新設された女性・家族開発政務次官として初の連邦政府入り。同次官ポストの新設はシャリザット・アブドゥル・ジャリル女性・家族開発相の以前からの首相への要請事項だった。

49歳。マラヤ大学卒。副郡長を経て、ブルリス州のジャヤディリ農民機構のジェネラル・マネジャー。1976年から18年間、農業省ムダ農業開発公団(MADA)幹部として勤務。96年からブルリス州UMNO女性部長。99年総選挙でブルリス州アラウ選挙区から下院議員に初当選(1回生議員)。今回の人事の直前まで企業家育成省所管の手工芸品開発公社の総裁を8カ月間務めた。

[既出データ]

■リン・リョンシクMCA前総裁(03/4/15)

■リム・アーレクMCA前総裁代理(02/1/1・15)

■オン・カティン住宅・地方政府相(03/6/15)

■チュア・ジュイメン保健相(01/8/1・15)

■フォン・チャンオン人的資源相(00/2/1)

■エフェンディ・ノルワウィ農相(00/2/1)

■ザイヌディン・マイディン副情報相(01/2/1)

■シャリザット・アブドゥル・ジャリル女性・家族開発相(01/2/1)

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)